

今月のコラム

菜園ブームを終わらせないために



株式会社JA東海グリーン
前田 悟

ガーデニングブームからリーマンショック以降、トレンドが大きく変化しブームになった家庭菜園ですが、「春の桜が長く咲き、花冷えの年は作物が不作」という言い伝えがあるほど、作物は気候にデリケートに反応します。

昨年の園芸を振り返ってみると、異常気象で温暖化の影響か、9月になっても高温が続き、農作物の成育に影響する高温障害が発生し、品質低下と収穫の遅れで、旬が大幅にずれました。園芸販売店では、花苗のマーケットが縮小し菜園マーケットが拡大したため、売上は培養土が減少、堆肥が増加しました。

お客様のタイプにも大きく変化が表れ、初心者がとても増えました。今までのお客様は、それなりに知識があり、自分で判断して買物をされていましたが、最近では全くの素人が多くなり、親切なアドバイスを必要とします。失敗しないで野菜作りができるような商品開発が急務となっています。

また、環境、有機、無農薬にこだわるお客様が、特に女性に増えてきました。有機といえば、虫や悪臭が発生する商品があり、これは本物の有機とはいえません。連作障害、残土処理土の再生についても問題がありますが、現在の最先端堆肥化技術は、悪臭やハエなどの不快害虫の発生を抑え、短期間で腐植化が行えるようになってきています。

失敗しない野菜づくり、夢の資材開発

農法で、酸性土壌であれば石灰を加え、アルカリ土壌であれば硫黄粉などの酸性物質を加えて中和をしていますが、近年、大気汚染の影響で酸性雨が降ることによって、土壌中の有効微生物の密度が大幅に減少し、せっかく堆肥等の有機物を与えて団粒構造のしっかりした良質な土づくりにお金をかけても、作物栽培上いろんな病気や障害が起こってしまいます。

また、コンクリートジャングルのベランダでの野菜作りは、夏場は輻射熱で夜温が下がらず夏バテで高温障害が発生します。ベランダで有機質肥料を与えたらブヨやハエが発生し、悪臭もあり近所迷惑になります。一作栽培した後は土壌消毒や有機質の追加、酸度調整などで土の処理が必要で、手間がかかり大変で初心者は失敗してしまいます。

以上、いろいろと述べましたが、野菜作りは地力の高い土が大量に求められます。これらの再処理が簡単にでき、プランター、ポットはそのまま連作できるような夢の資材開発を模索しています。

近年開発されている資材では、以前は除草剤といえばケミカルが一般的でしたが、植物抽出液で雑草を枯らすことができ、また土壌中の微生物を活性化させることができる、夢のような商品があります。口に入っても大丈夫です。

また、化学物質によって土壌汚染が進んでいます。こうした土壌で栽培された作物を食すことにより、我々も知らず知らずのうちに摂取しています。近年これらの汚染物質を包み込んで無毒化し、なお且つ安全な土壌環境を整える資材が開発されています。

今後、まだまだ菜園ブームを続かせるためにも、ミミズを利用した家庭内循環型園芸や、地力の高い土を作る良質な堆肥など、皆さんがよく言っておられる、「失敗させない」を業界で最重点目標として、商品開発を目指して欲しいと考えます。



カエデ
kaede

ガーデントライアルIN 八ヶ岳2011

～2011年9月27～28日開催～

NPO法人ガーデンを考える会では、昨年、蓼科バラクライングリッシュガーデンでフラワートライアルと同時開催した展示商談会「ガーデントライアルIN 蓼科2010」の盛会を受け、2011年はさらに規模拡大して開催することになりました。今回も（社）日本家庭園芸普及協会から後援を受け、募集は2011年1月より行っています。

同時開催の「フラワートライアルジャパン2011秋」（27～29日）も、新たに66名で構成する長野県鉢花園芸組合の出展が予定されるなど、規模拡大が見込まれています。

来場予定者は、ホームセンターバイヤー・ガーデンセンターバイヤー・小売店仕入担当者・造園関係者・生産者・市場関係者・マスコミ関係者・行政関係者・ベンダー・メーカーなど多数を予定しています。

ちなみに前年実績はバラクラ会場のみで1,044名でしたが、今回は小淵沢地区から原村や蓼科地区と広大な地域に広がり、来場予定者にとっては更に見応えのある総合的な展示会となるものと期待しています。

出展料は、今回は1小間の大きさを2倍にして3×3mが基本となり、会員価格は@8万円（非会員10万円）、小小間は1.5×1.5mで@5万円となります。

初日夜には、昨年約300名の業界人が一堂に会した情報交換・懇親会も予定されています。

今回のトライアルには、日本家庭園芸普及協会などほかの団体にも積極的に呼びかけていくことにしています。会員各位の参加をお待ちしています。

詳細は事務局（052-571-7911）まで。



前回の会場

日本フラワービジネス大賞 に会員の角田ナーセリー

ジャパンフラワーセレクション実行協議会は12月7日、2010年の「フラワー・オブ・ザ・イヤー」および「日本フラワービジネス大賞」授賞式を行った。

日本フラワービジネス大賞2010では、会員の(有)角田ナーセリー（愛知県、角田篤社長）が受賞。昭和47年の設立以来、農業生産の企業的自立を目指し、雇用の充実を図りながら、ガーデンセンターなどへの直接販売により固定価格、庭先販売を一貫して推進してきた。千日小坊やカレンジュラまどか等、オリジナル品種の育成開発にも積極的に取り組み、花苗部門の先駆的な企業経営モデルとして貢献していることが理由となった。



後列が受賞者。右より3人目が角田篤社長。

短信

セキスイエクステリア株式会社は、12月、本社を東京都新宿区揚場町1番21号、飯田橋升本ビル7階に移転した。
Tel:03-6685-7030 Fax:03-6685-7035



バレンタインに花束を!

フラワーバレンタインに参加しませんか?

バレンタインデーに花束を贈ろう。それも男性から女性へ。そんな花贈りの一大キャンペーンが始まっている。「フラワーバレンタイン」と名付けられたこのキャンペーンは、花き業界が一丸となって、バレンタインデーで新たな花き需要をつくりだすためにスタートした。

ガーデンセンターやフラワーショップの店頭で、統一ポスター、統一の商品タグを使い、マスメディアも巻き込んでの一大プロモーションをしようというのが、フラワーバレンタインだ。誰でも参加できる。参加費1万円。

<http://www.jfpc.or.jp/valentine/>



第4回国際ガーデンEXPO、第2回国際エクステリアEXPO等

新商品発表&スタイル提案の場として定着

ガーデニング・緑化業界で国内最大の見本市が10月28～30日、千葉市の幕張メッセで開催された。ガーデン、エクステリア、フラワーが一緒になった展示会は、合わせて過去最大の世界27カ国から913社が出展し、3展合計の来場者数は3万651名に上った。

展示では、春のガーデニングシーズン本番に向けた新商品発表の場として定着し、当会会員各社も資材、植物などを使うスタイルも含めて提案した。



過去最大規模で開催された



新たに設けられた「ガーデニングファッションゾーン」には多くの出展社

ガーデニングワールドカップ2010、来場者が8割増

10月9日から11月7日までの30日間、長崎県のハウステンボスで「ガーデニングワールドカップ2010ナガサキ フラワーショー」が開催され、世界で最も権威のある英国の「チェルシーフラワーショー」の歴代受賞者をはじめとした世界のトップガーデナー12名10組が参加した。

来場者は、大会2日目の10月10日には単日の入場者数が2万人超を記録するなど、ハイペースで伸び、当初の開催期間を変更して7日間の延長も行い約18万6千人が来場した。前年同期と比べて入場者数が約8割増となるなど、国内におけるガーデニングへの関心の高さがうかがえる結果となった。第2回大会も開催予定。



「ベストデザイン賞」を獲得したニコ・ウィッシング氏の解説



カエデ
kaede



新たな一步を求め入会

兵庫県で花壇苗生産をおこなっています。埼玉の吉田園芸さんと同じ屋号ですが、よろしくお願ひします。

今回、生産者部会に参加させていただいたのは、会を通じて会員の皆さんから様々な刺激をもらいたと思ったからです。

私の商品は大半を市場流通していますが、オリジナル品種などの個性的なアイテムを持っている訳ではありません。そのためどうしても相場の影響を受けやすく、「継続して安定した収入を」が口癖になっています。

我が家の労働事情が家族労力に依存していることもあり、私自身が生産に関わる割合が高く、どうしても営業がおろそかになりがちです。その結果、恥ずかしながら自分の商品がどこでいくらで売れ、どのように利用されているのかという実態も十分に掴めていないのが現状です。同じ危機意識を持つ若手の仲間達とは「何か新しい取り組みを」、「今までとは違う流通ルートの確保を」といつも口にするのですが、いざ具体的な行動をとると残念ながら足踏している状態です。

こういった現状を少しでも改善するために、生産者以外の方々や異業種の方々との出会いの場に出ようと決意しました。異業種交流から何かが見出せないかと期待し、ガーデンを考える会をそのきっかけの場として活かそうと思っています。

どの年代層をターゲットにするのか、ポットサイズやラベルデザイン、ネーミングまで工夫できることはいくらでもあります。また、自分が当たり前のように思っていることでも、メーカーや売店、消費者（特に女性）側から見れば違った見え方をしていることもきっとたくさんあります。自分の商品を見つめ直し、これから一つ一つ改善に取り組んでいきます。

なにぶん、生産一筋でこの文章一つ書くのも手こずっているような私ですが、これからの皆さんとの出会いの中でご指導いただければ嬉しく思います。今後ともよろしくお願ひします。



吉田園芸 吉田茂雄

生産者部会より

カラコエ

カラコエというと一般的にブロスフェルディアナ種の事を指し、最近は見た目も華やかな八重品種も出てきました。コンパクトで小花のかわいらしい雰囲気の人気のカラコエですが、新たに花茎を伸ばして咲く草丈の高いタイプが登場しました。鉢花としてはもちろん寄せ植えの主役になれる草姿です。

丈夫で室内で花持ちがよく水管理も簡単のため室内鉢花としてとても重宝されています。

しかし、カラコエは外でもきれいに花を咲かせますので、コンパクトな品種を使い花壇の縁取りや寄せ植えのワンポイントに、また草丈の高い品種を使い花壇の後方や寄せ植えの主役など使い方を楽しくみてください。

関東支部 小林孝之（小林花卉）

<http://www.kobayashikaki.com/>

